



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.12
2011.8

※りぼん第10号から市報にいみ内へ掲載という形で、男女共同参画に関する情報をお届けしています。

自分が変わればみんなも変わる !?

～キーワードは「自立」・「思いやり」・「感謝」～

今回の「りぼん」では、過去に発行した「りぼん」で行った取材(中学生やA L T (外国語指導助手)などへのインタビュー、団塊世代や子育て世代へのアンケートなど)や、日常生活の中で編集委員が男女共同参画について「ちょっと変かな?」、「こうなればいいのに…」、「良くなってきたな」と感じたことを会話形式でご紹介します。

男女共同参画というと、ちょっと難しそうなイメージもありますが、一人ひとりが「自立」、「思いやり」、「感謝」ということを意識するだけで、いままで気づいていなかったことに気づき、家族や地域の人とよりよい関係を築くことができるかもしれません。

いまでも続く、「ちょっとおかしいのでは?」「変わったら良いのに」と思う習慣や風習はありますか?



我が家には女性が4人いますが、炊飯器のスイッチを入れ忘れていたことがありました。

その時に父が「**女が4人もいるのに**炊飯器のスイッチが入っていない。」と言いました。

男でも炊飯器のスイッチは押せるのに、やっぱり「炊飯器のスイッチ=**炊事は女性の仕事**」だという意識が根底にあるのでしょうか?



家事や育児については、女性はやって当然、やらなければ「女性なのにできていない」と非難されます。

男性は「**男性だからしなくてもよい**」というのが当然とされているのではないのでしょうか?



学校での制服や校則などにより性別での役割分担意識が強化されている面もあるかもしれないですね。



ある会議の場で、脱ぎっぱなしの靴をそろえているのは女性でした。自分の靴は自分でそろえるのが当たり前だと思いますが、女性がそろえているのを見ると、(女性の私は) 見ているだけでそれを手伝わないことに何となく後ろめたい気がします。男性は脱ぎっぱなしでも平気なのかな？

男性が他人の靴をそろえているのはあまり見たことがないですが、脱ぎっぱなしの靴をそろえるのが **礼儀なら、男女に関係なく身につけるべき**だと思います。

男性は「靴をそろえなさい。」と注意はするものの、そろえる気遣いが見られないことが多いのでは？

自分の靴は自分でそろえればいいのにといいながらも、そういう細やかな気遣いは女性がするものという慣例的な意識があるのではないのでしょうか。



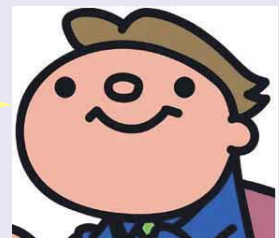
一般的に婦人会活動というと市内の各地域でもこれまでは女性のみが活動し、男性は出てこられない風潮がありました。



男性の育児休暇取得が、なかなか進んでいないのはなぜでしょうか？



どうすれば変わっていくと思いますか？



神事や仏事など伝統的な場面における男女の役割に目を向けるよりも、基本は**一人ひとりが自立**をしていくべきだと思います。自立をすることが男女共同参画を実現するための方法になるのではないのでしょうか。



家庭や教育現場で、**子どもたちの自立を促す**ような周囲の意識が大切だと思います。



「男らしさ」や「女らしさ」のイメージはテレビドラマなどメディアからの影響が大きく、ゴールデンタイムなど家族団らんの時間帯に放映されるとさらに影響があると思います。

与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、家族で話したり、学校で取り上げたりして、よく考える必要があるのではないのでしょうか。

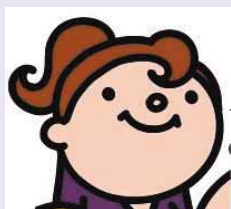
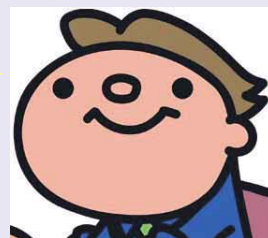


男性というだけで無条件に家事、育児に参画しなくてもよいとされる社会は男性にとって居心地が良いものかもしれません。反面、家事、育児をしない女性は、女性であることを理由に非難の対象になりがちです。

どちらかの性に都合の良い慣習に縛られることなく **もっと自由な考え方を取り入れて**みて、まず、自分が変われば周囲も変化していくのではないのでしょうか？



では、変わってきたことや、このままでも良いなと思えることはどうですか？



地区によっては婦人会活動の演芸発表への取り組みの場で、共同参画の一環として練習から発表まで、**男性も一緒になって演芸**を楽しんでいます。



最近では男性が積極的に家事をしているCMもあり、**メディアも変わってきている**と感じます。

家業である農業は夫が自分の仕事としてずっとやってくれました。その代わりに炊事は私（妻）がやってきました。特別に家庭の外の仕事は夫、家庭の中の仕事は私（妻）と役割分担を決めてはいませんでした。自然とそうやってきました。一言でいえば昔ながらの役割分担ですが、**夫婦でお互いができることをやり**、家庭のことを協力してやってきて満足し、**感謝しています**。



最近では法事などで人が集まった際に、片づけをお願いしたら、若い人も年輩の人も協力して片づけをしてくれます。

ひと昔前なら片づけは女性が中心だったように思います。

周囲への思いやりというか、この4、5年で大分変わってきたのかなと感じています。



編集後記

英語で、「Nice try (ナイス トライ)」日本語なら「よく挑戦したね。」といったところだろう。聞いた話ではアメリカの学校教育では、授業中先生の質問にクラスの大勢の子どもたちが活発に手をあげるといふ。興味深いのは、答えがよくわかっていない子どもでも手をあげるのだそうで、先生は子どもの答えが「正解」でなくても「Nice try!」と言ってほめるのだそうだ。どうやら「正解」か「不正解」よりも、自分なりの意見を発表することが大事らしい。

ほめてもらってうれしいのは子どもだけではない。大人だって、ほめられたい。認められたい。しかし学校の授業ではないが、もし違っていたら、もし失敗したら、もしできなかったら、果ては言われてもいないのに、頼まれてもいないのに、言わないやらない、行動しない理由をあげればいくらでもある。

さて、しないやらない理由を「男だから。」「女だから。」と手を挙げる前から何となく決めつけてはいないだろうか。「男らしくないから」とか、「女なのに」と、社会の中の暗黙のルールが幅を利かせる。手を挙げたくても挙げにくい。手を下げたくても下げにくい。

金子みすゞさんの詩『わたしと小鳥と鈴と』の最後に「みんなちがってみんないい。」とある。そう、一人ひとりみんな違う。好きな食べ物、好きな歌、好きな季節に好きな場所、好きな服装、好きな色。得意、不得意、数え上げればきりが無い。「男の役割」や「女の役割」、「男らしさ」や「女らしさ」にこだわらず「自分らしく」ナイストライといきたいものだ。

新見市男女共同参画プラザをご存じですか？

男女が性別にとらわれず、それぞれの個性や能力を十分発揮して、共に歩み、共に責任を担うべき社会（男女共同参画社会）づくりのための施設として、みなさんをサポートします。

相談を受け付けています

女性相談員が、対人関係や家庭のこと、DVなど、さまざまな悩みに耳を傾け、問題解決のお手伝いをします。一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

色々な情報が手に入ります

男女共同参画に関する情報紙や、図書、また、貸出用ビデオ・DVDも備えていますので、お気軽にご利用ください。

- 場 所 新見市新見123-2
まなび広場にいみ2階 メディアフロア-南側
- 開設時間 毎週水～金曜日（祝日・年末年始を除く）
10:00～18:00
電話や市ホームページでも相談を受け付けています。
(☎@6159)
URL:<http://www.city.niimi.okayama.jp/?ID=13935>
- 問い合わせ先 新見市男女共同参画プラザ (☎@6159)
企画政策課広報係 (☎@6114)

